



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 106 号

-
- | | |
|--|--------------------------------------|
| ・発行日／2020年10月05日 | ・発行所／クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局／〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2-7-6305111 竹澤三佳子方 | ・Tel/Fax 054-283-1721 |
| ・郵便振替口座／00150-0-134994 | ・e-mail／sunflower818@hw.tnc.ne.jp |
| | ・https://www.christian-partners.com/ |
-

ミャンマーの子どもたちへの養育・学費支援のお願い

理事長 木ノ内一雄

クリスチャンパートナーズは1984年の発足以来、インドネシア西カリマンタン州に散在する教会を通じて子どもたちへの学費援助を中心に活動を続けて来ました。これはアメリカのパートナーズインターナショナルの祈りに応えるもので、援助はCNECシンガポール事務所経由で現地に送られています（SACプログラム）。近年、西カリマンタンの経済的発展に伴い、自立の進んでいる状況を見、またシンガポール事務所からも数年来、わたしたちの活動の場をメコン川流域の子どもたちに移してはどうかとの提案を受けて来ました。幸い、2017年にラオスとミャンマーを訪問する機会を得ました。その結果、理事会でミャンマーの子どもたちへの学費援助を検討するようになり、シンガポールに問い合わせをしたところ、今回の養護施設を紹介されました。この施設は最近一人の牧師によって始められたもので、わたしたちは最初の6人の子どもたちの養育・学費支援から始めることにし、日本語で「恵みの家」と名づけました。

かつてビルマと呼ばれていたミャンマーは最近になって外国に扉を開いたアジア最後のフロンティアとも呼ばれる若い国です。国の最高顧問であるアウンサンスーチー氏は日本でも良く知られていますが、軍政下、ロヒンギャや北部山岳地帯での部族間の対立、そして中国と国境を接していることなどから様々な問題を抱えています。特に部族間の争いは多くの孤児を生み、国の助けは期待できず、仏教系・キリスト教系の施設は充分ではありません。この子たちに良い教育を受けさせ、能力のある子にはさらに上の学校で学ぶ機会を与えられるなら、国の将来にとってどれほど有益か分かりません。わたしたちの祈りは子どもたちが自分の力で聖書を読み、学ぶことができるようになればということです。そのためこの子どもたちのスポンサーになって頂けたらというのがお願いです。一人の子の養育支援は月4千円、その内の3500円がシンガポール事務所経由で、ミャンマーに送られます。残りの500円はわたしたちの必要諸経費になります。是非、ミャンマーの子どもたちへの養育・学費支援に、ご協力を宜しくお願い致します。

ガーナ活動 2019 年度・年次報告 アモス・バンマリグ

抄訳 木ノ内和美

2019 年度は神のご加護のもと、奉仕者の健康も守られよい成果を上げることができました。

伝道者達は各地域でよい働きをし、789 名もの方々を信仰に導くことができました。六つの使徒訓練のプログラムを遂行できました。一つ目は心を頑なにしている方々への伝道方法です。訓練は、すべて成功裡に導かれました。二番目は、教会指導者に宛てた十分の一献金の勧めです。この訓練は、「受けるよりは与える方が幸いである」(使徒言行録 20:35) ことを教会員たちに勧めることも意味します。三番目は、神に喜ばれる家庭をどのようにして築くかと言うことで、夫と妻にとって大切なことです。四番目と五番目は、青年たちがスポーツで体を鍛えると同時に、伝道の手段としてスポーツを行うということです。六番目は、女性たちが家計を支えるために、小さなビジネスを始める手助けをするものです。それには資金が必要になります。

2019 年度は、多少の困難はありましたが、大きな問題はなく守られたことを先ず全能の神に感謝いたします。また、皆様のお祈りとご支援を感謝いたします。最後になりましたが、皆様のお働きの上に神の祝福がありますように。そして、2020 年が恵みに充ちた年になりますようお祈りいたします。



ヤマ周辺の子どもたちのスポーツ大会

1 伝道活動

開拓伝道において豊かな実りを上げることができました。伝道者たちは、多くの人々をキリストに導くために全力を尽くしました。村から村への移動はいつも簡単ではありませんが、彼らは必要な交通手段が与えられると信じています。

2 養護施設・学校運営

ヤマ子供の家は、日本のクリスチャンパートナーズの支援の中核をなしています。子供達の数は増え、学校も前進してきています。341 名の子供たちに 7 名の教師が指導に当たっており、将来の指導者たちも育っています。

3 山羊育成プロジェクト

私達の伝道の業の中でも中心的な役割を果たしています。この地域はイスラム教徒が多く彼らの置かれている貧困を救済し、生活レベルを上げるだけでなく、福音伝道の技にも貢献しています。



4 農業

私たちは有機農法を指導してきましたが、政府は農薬を使用することにより、より広い農地を得て生産性を上げようとしています。私たちは有機農法によっても生産量を上げられると指導してきましたが、一部の人々は面倒だと思ってきました。しかし、うれしいことに多くの農夫たちが有機農法は家族の健康を守り、命を大切にす農法であることに気づき始めています。日本のアジア学院で学んだことは、人間の健康にとって最も大切であること、つまり食品に化学添加物を一切使わず、狭い土地でも多くの収益を上げることができるということです。

収穫を集める女性たち→

5 青少年伝道

このプロジェクトを通して、多くの若者の生活態度が変わってきました。今年度は年中行事として、15歳以下の青少年のためにスポーツ競技を組織しました。このプログラムにより、青年たちがキリストへの熱意を増し加えられるよう祈っています。



今年度は、私たちの農地が火災に見舞われました。農地をすべて失った被災者への援助に心から感謝しております。洪水、旱魃、火災などに見舞われた時、温かい支援の手を差し伸べてくださった皆様へ感謝し、神の祝福を祈ります。(1月21日に火災見舞金として5万円を送金しました。) 宣伝活動のディレクターとして立たされている私、家族、スタッフ、教会や村の長老たちは、皆様に心から感謝しております。この関係が神へ栄光を帰するために今後も継続されるように祈ります。2020年もより良いパートナーシップが築かれますようお願い、感謝の言葉といたします。皆様の上に神の祝福がありますように。

祈りのお願い

- 1 プロジェクトリーダーとその家族、スタッフのために
- 2 パートナーズの理事会とその家族が神のお導きのうちにあるように
- 3 各地域への移動が守られるように

作業を前進させるために克服すべき目標

日本のクリスチャンパートナーズがさらに多くの必要経費を援助して下さるよう
さらに多くのことを成し遂げるために貯蓄を進めていけるように

- 1 山羊飼育プロジェクトのために更なる支援
- 2 交通手段の充実
- 3 公的住居の改善

財政報告	1 山羊購入：20頭 (1頭 250,00 セディ X 20 = 5,000,00)		
	2 家畜運搬費 (560,00 セディ)		
	3 指導者研修 (2,000,00 セディ)		
	4 養護施設：食費 (2,134,000 セディ)	合計	9,694,000 セディ



ヤマ養護施設の子どもたち

9月13日にバンマリグ師から木ノ内理事に届いた mail によると、洪水で死者7人、倒壊した家々、流失した畑と作物の災害があったとのこと。教員と彼自身の畑も被害にあったそうです。2020年度の支援金20万円を送金したばかりでしたが、災害支援として5万円を送りました。

元インドネシア奨学生の近況

大学院卒業後、神学校でインドネシア語を指導しているダミさんが結婚されました。



「通信」 #100,101 参照

キー・ハジャーは念願の教師職を得て、いよいよ教壇に立ち、第一歩をはじめました。



「通信」 #96,102,104,105 参照

【理事会報告】 対コロナ予防のため、5月11日の理事会を延期し、第210回を7月20日ウェブ会議の方式で開催。2020年1～6月会計報告及び2019年度会計報告・新年度予算承認し、ミャンマー支援を加える。「通信」106号は9月末発行予定で、2019年度会計報告を添付。

第211回理事会は2020年09月07日(月)ウェブ会議で開催。2020年7,8月会計報告承認。ミャンマー支援の具体策協議。支援金の海外送金困難について、改善策を協議。

理事会後、シンガポール事務所のライ氏から送られたミャンマー支援案について、理事長と宮澤理事で具体的に協議。準備のための一時金は宮澤理事が負担、月々の支援金2万4千円は理事長と宮澤理事が折半とする。次回理事会日時は未定。

〈編集後記〉理事会が半年開催できなかつた上、ウェブ会議という未経験の方法で行われ、非常な困難を感じております。2020年度が始まり、ミャンマーという新しい支援の場が与えられました。支援者のますますのご協力をお願いします。コロナによる困難の中、皆様の健康が守られますように祈ります。 鳥海百合子